

県外派遣報告書

審判員名（報告者）	羽田 菜奈美	所 属	U15 連盟
大会名	令和5年度 関東 U14DC 交流試合		
期 間	2024年 2月23日 ~ 24日（参加日：2月23日, 2月24日）		
会 場	千葉県 塩浜市民体育館		
ス ケ ジ ュ ー ル			
期 日	内 容	場 所	
2月 20日	研修会	ZOOM 会議 自宅	
2月 23日	実技	塩浜市民体育館	
2月 24日	実技	塩浜市民体育館	
研修会 講義内容			
東京都 藤代氏、栃木県 若林氏より今回の関東クリニックに向けてご講義をいただきました。			
<ul style="list-style-type: none"> ●クルーと協力する。 ●自分自身が何のために審判をしているか。なぜ審判を始めたか。 ●審判をするうえで一番大切なことはプレーコーリング。 ●関東クリニックのテーマは「寄り添う」寄り添う相手は、監督、選手、観客、保護者がいる。 			
担当試合①			
期 日	2月23日（金）		
対戦カード	千葉 vs 茨城		
ク ル -	CC：東京 原添氏 U1：山梨 三沢氏 U2：埼玉 羽田		
ミーティング内容	審判主任：栃木 若林氏 茨城 木村氏		
<p>ローテーションを完了するまでの4段階…セットアップ→クローズダウン→ピンチザペイント→ローテーションを意識する。</p> <p>セットアップポジションからいきなりローテーションを始めてしまうとローテーションミスが生まれやすい。</p> <p>ボールを追いかけすぎてオフボールの動きを疎かにしない。ミドルドライブなどは覗き込まず、体を動かす。</p> <p>クルーのプライマリで何かが起こっている際に見えなそうなところを感じて助ける→寄り添い</p>			
担当試合②			
期 日	2月23日（金）		
対戦カード	千葉 vs 群馬		
ク ル -	CC：山梨 三沢氏 U1：埼玉 羽田 U2：東京 原添氏		
ミーティング内容	審判主任：栃木 若林氏 山梨 荻野氏		
<p>ローテーションを完了してから体をコートに向ける。先に体をコートに向けて下らない。</p> <p>もう少しピンチザペイントの意識を。もう少し吟味してからローテーションする必要がある。</p> <p>ファールやバイオレーションをコールした時の見せ方。体が小さい分見せ方の工夫が必要。</p>			
担当試合③			
期 日	2月23日（金）		
対戦カード	埼玉 vs 栃木		
ク ル -	CC：埼玉 羽田 U1：東京 原添氏 U2：山梨 三沢氏		
ミーティング内容	審判主任：栃木 若林氏 埼玉 若林氏		
<p>トスアップの仕方。下に一旦下げ、勢いをつけてしまうとジャンプボールのタイミングを凶られてしまう。</p> <p>できる限り高い位置から親指でボールを押す。その際にボールに回転がかからないよう注意する。</p>			

トスアップは笛を鳴らしてから行う。

シリンダーの整理。ピポットが踏めない状況まで追い込まれたらコールする。軸足を挟む DF は NG。

ファールコール後は何をやめてほしくてコールしたか。メッセージを伝える。

手などは早めに整理する。始めのテンポセットが大切。

担当試合④

期 日	2月24日(土)
対戦カード	埼玉 vs 東京
ク ル ー	CC: 東京 原添氏 U1: 群馬 新井氏 U2: 埼玉 羽田
ミーティング内容	審判主任: 東京 藤代氏 千葉 林原氏
いくつかあったファールコールの中でプライマリではないクレーがシングルで鳴らしているケースが多かった。→この場合はタイムアウト時などに確認をし、プライマリがどのように見えていたか確認ができるとよい。	
上記のすり合わせができると、マージナルなのか、ファールなのかの選別がしやすくなる。	

担当試合⑤

期 日	2月24日(土)
対戦カード	千葉 vs 神奈川
ク ル ー	CC: 群馬 新井氏 U1: 埼玉 羽田 U2: 東京 原添氏
ミーティング内容	審判主任: 東京 藤代氏 東京 草野氏
UFについて(C4)接触があった後、オフェンスはシュートまで行っていた。	
コールされたのは AOS 前。ここで一旦流れを見て、シュートを打ってからコールできれば NF でバスケットカウントにできる。	
→選手への寄り添い	
AOS 前でコールし、UF になった場合は適切な処置でゲームを再開する。	

担当試合⑥

期 日	2月24日(土)
対戦カード	茨城 vs 山梨
ク ル ー	CC: 埼玉 羽田 U1: 東京 原添氏 U2: 群馬 新井氏
ミーティング内容	審判主任: 東京 藤代氏 茨城 木村氏
ローテーションがあまりスムーズにしていなかった。FT やゲーム再開の際のアイコンタクトが少なく、クレー間でのコミュニケーションが薄かった。クレーはもちろん、TO 間とのコミュニケーションも大切にするとよい。	
観客やベンチに見られているので、自分の動きやシグナルが周りで見られているという意識を持つ。	

全体の感想

まず初めに、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、関東クリニックへ派遣して下さった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導くださっている方々へ感謝申し上げます。

今回の研修では、新しい知識の習得と新たな課題の発見ができました。他県の方々と交流し、試合中のアイコンタクトでのコミュニケーションやローテーションの気配り、プレゼンテーション、プレーの吟味などが今後の課題であるということを実感することができました。

また、「寄り添い」をテーマに行われた今回の研修で、一つ一つのプレゼンテーションやコールが誰に寄り添っているのかを考えることができました。寄り添う相手は選手やコーチ、クレー、観客や保護者などがあります。試合でコートに立つ一員として試合に関わっているすべての人に寄り添えるようこれからも精進していきたいと感じています。

今回の経験を今後に生かせるよう、これからも邁進してまいります。

以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。